

総務委員会行政視察報告書（平成 30 年 4 月 25 日）

日 時：平成 30 年 4 月 25 日（水）
視 察 先：兵庫県淡路市
視察事項：『淡路市防災あんしんセンターの設置、阪神・淡路大震災後の市の防災減災対策について』
内 容 <p>淡路市防災あんしんセンターを会場とし、市の危機管理部危機管理課の担当者より、視察テーマに即した形で、種々お話をいただいた。</p> <p>まず、阪神淡路大震災について改めて確認をさせて頂いた。発災当時の町役場では即時、災害対策本部が設置をされ、人命救助を最優先として職員全員で対応に従事。地元住民や消防団とも連携をして、発災日夕刻には全住民の安否確認が完了した。これは、緊密な近所づきあいがあることで迅速な救助が展開されたもので、「自助・共助」がうまく機能したことが大きな特徴であった。大震災を受けて浮かび上がった課題は、地震に対する知識と経験の不足、情報の伝達の遅れによる被害の拡大があったということである。また、経験を風化させないことも重要な視点とされていた。</p> <p>震災後の市の取組みとしては、防災体制の整備について市の地域防災計画へ教訓を反映させたことがある。情報伝達については、職員初動マニュアルの策定、市民向けに防災ガイド及びハザードマップの全戸配布などを行っている。また、防災行政無線システムを整備し、全ての家庭に個別受信機を配布。また、地域防災力向上のために、防災講話・総合防災訓練を実施したり、防災士養成事業補助金を設置して防災士資格取得を促進していた。</p> <p>また、淡路市では大震災の教訓を生かし、広域防災・救援の拠点として「淡路市防災あんしんセンター」を設置した。これは常時、住民・来庁者と交流する場を設けることで住民参加による地域防災力の向上を図り、災害ボランティアも育成し、救援・支援体制を強化していくことを目的としている。1階の配食センターは平時は学校給食の配食や炊き出し訓練を行い、2階は防災センターとして危機管理部の執務室をはじめ、災害時に機能する各施設を整備している。</p>
視察を終えて <p>阪神淡路大震災から 23 年が経過し、震災からの復興を成し遂げていく中、その教訓を生かしながら自治体としてどのような防災対策を展開してこられたのか。そうした点を是非学ばせていただきたいとの思いで、淡路市へ視察に伺った。</p> <p>担当者から種々お話を伺い、自助・共助が実際の災害現場でどれだけ重要であるのか、また震災記憶の風化との戦い、地域防災力向上のための情報伝達の強化、人材育成に予算も付けて尽力をしておられる様子がよく理解できた。</p> <p>今後の展望についてのお話の中で、「地震はいつ・どこで発生するかわからない。そのためにも市として防災体制の一層の強化はもちろん、市民による自助・共助が機能する環境づくりに努める」との点が、特に深く印象に残った。当市においても、そうした体制づくりの強化の必要性を改めて感じた視察であった。</p>

※視察の資料等については、議会事務局に保管してあります。

総務委員会行政視察報告書（平成 30 年 4 月 26 日）

日 時：平成 30 年 4 月 26 日（木）
視 察 先：愛媛県新居浜市
視察事項：『アセットマネジメントの推進について』
内 容 <p>新居浜市は愛媛県下の有数の工業都市である。平成 15 年の宇摩郡別子山村編入を経て、当市よりも早く適正な公共施設管理について、特にアセットマネジメントの導入の検討を開始した自治体である。</p> <p>視察当日は、総合政策課担当者より詳細な説明を伺った。まず、平成 23 年度策定の「新居浜市アセットマネジメント推進基本方針」について説明があった。ここでは、他自治体同様、集中的に公共施設が建設された時期があり、更新時期が集中することで財政的な負担が重くなること、そして人口減少に伴う歳入減が見込まれることなどの課題が述べられた。こうした事態に的確に対応するために、長期的・経営的な視点で公共施設を管理・活用・処分する取り組みである「アセットマネジメント」の手法を用いることとなったようである。</p> <p>その導入効果は、今後 30 年間の更新費用比較で 484 億円（年平均 16.1 億円）との試算が示された。また、更新時期の平準化や施設の延命化で更新期間の集中を回避できるとの話があった。</p> <p>平成 24 年度以降の施設保全計画の策定に当たっては、保全情報システム「BIMMS」を導入することで効率的な計画の作成・運用を図っているとのことであった。この「BIMMS」は年間コストも高くなく、有効な手段のようである。そして、データ作成後に現地確認をして優先度を判定し、保全計画の作成とその予防保全実施、というサイクルを回していくことで、市有財産の適正管理に繋がっている現状が紹介された。</p> <p>その後、公共施設白書並びに公共施設再配置計画に関する話があった。公共施設白書については「市民が見て視覚的に理解できる資料」とのコンセプトで情報提供を心掛けていた。また、現在進めている再配置計画については、施設の複合化・集約化や統廃合を検討することを目的とし、「立地適正化計画」と同一の事業者へ委託することで計画の整合性を担保しているとのことであった。</p>
視察を終えて <p>新居浜市では、平成 17 年度からアセットマネジメント手法導入へ向けた庁内勉強会を開始しており、早い時期から関心を持って取り組んでいる。新居浜市ではこの手法を用いて、緊急に改修を要する施設を洗い出し、保全計画を立て、順次対応を進めている。これを毎年繰り返すこと、長寿命化を図り、データの蓄積を粘り強くやっておられた。こうした地道なデータ蓄積の施設保全の実施を積み重ねることは、労力と根気のいる仕事だが、その実際を知ることが出来たのは、今後の市の公共施設管理の事業に大いに参考となるものと考えます。視察終了後、議会事務局のご厚意で駅前の「あかがねミュージアム」を見学し、こちらでは新たな公共施設の活用の仕方を目の当たりにさせて頂いた。</p>

※視察の資料等については、議会事務局に保管してあります。